

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果								
事業所名	ココロノイロ							
公表日 2026年2月17日								
利用児童数 32								回収数 12
		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7	5	0	0	室内スペースは限られていますが、外出が多く、楽しんでいますので問題ないです。	移転後においても充実した時間を過ごすことができるよう子ども達に合わせた環境設定を行っていきます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	8	3	0	1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9	2	0	1	ハード面は仕方ないと思う。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8	3	0	1		
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援を受けられていると思いますか。	11	1	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11	0	0	1		
	7	子どものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12	0	0	0		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11	0	0	1		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11	0	0	1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	0	0	0		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	7	1	0	4		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11	1	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11	1	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	1	1	4	もう少し回数があっても良いと思う。	次年度のプログラムに反映させていきます。
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	11	0	0	1		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	2	0	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	1	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	2	2	5		

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	1	0	1		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	0	1	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	11	0	0	1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	0	1	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9	1	0	2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10	0	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	1	0	3	まだそのようなことを経験していないので わかりません。	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	11	1	0	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	12	0	0	0	土曜日開所を設けてもらいありがたい。	次年度からは、毎週開所できるようにしていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	10	2	0	0	小学生向けのようなので。	様々な年代のお子様が利用できるよう環境やプログラムを検討していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ココロノイロ				公表日	2026年 2月 17 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	0	・必要に応じて公園等で思いっきり体を動かせる外出活動を多く取り入れたり、体力や体調に合わせて一人ひとりが好きな事ができるように環境を整えています。	・R8年4月1日から事業所移転を行います。それでお子様が楽しく安全に過ごすことができるよう、利用された様子を踏まえながら環境を整えていきます。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	0			
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	0			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	0			
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	0			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	0	・日々のミーティングを実施する中で、職員全員で業務の確認や振り返りをして改善が必要な事についてはすぐに対応するようにしています。	環境の変化により様々な改善が必要な事が出てくると考えられるため、一人ひとりの職員がありたい姿、より良い支援に向かって現在と変わらぬよう提案し、職員全員で改善していく風土を確立していきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	・少人数の職員編成の為、それぞれが意見を出し合えるようにコミュニケーションを大事にし、それが提案したことを実現していく体制や働きやすい環境を整えています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	・職員研修においては、年間計画を立てると共に、法人内集合研修を受講し資質の向上を図っています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	0			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0			
支援体制	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	0	・個別支援計画作成の際、アセスメントや利用児・保護者の要望、現状からニーズを掘り起こし、5領域から検討したココロノイロが行っている活動につなげています。	・一人ひとりの意向を丁寧に聴き取るだけでなく、言葉で表現できないことは日頃の姿から汲み取り、子ども中心の個別支援計画に基づいた支援を行うよう努めます。また、発達にかかる学習会を実施し、それぞれの発達に合わせた支援を行う体制を整えます。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	0	・職員全員で意見を出し合い、モニタリングを実施しています。子どもたちの特性に応じて楽しいと感じてもらえることを考え個別活動や集団活動に反映しています。また、日々の子どもたちの動きを観察し、子どもたちの気持ちに寄り添い、身振りや表現を受けとめ自己決定がしやすいよう支援の環境を整えています。	・「移行支援」「地域支援・地域連携」の項目における支援を充実していくよう、移転後に地域行事の参加や地域資源を活かした活動を充実させていきます。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0	・支援後にそれが気づいたことを話し、情報の共有を行っています。また、その情報共有から記録の漏れがある場合は追記し、丁寧に情報を残しています。	・ガイドラインの「4つの基本活動」に適宜立ち返り支援をしていくために、それぞれの職員がガイドラインを理解していくよう学習会を実施していきます。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0			
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	0			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0			

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	0	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	0	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	0	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	0	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	0	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	0	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	4	0	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	0	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0	・児童発達支援管理責任者や管理者が関係機関との会議に参画し、記録を残し職員間で共有しています。会議前に、他の職員の気づきも含め事前に情報のまとめを行い参加するようっています。 ・学校との連携においては、お迎え時に当日の様子や事業所での様子を共有しています。
関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	0	また、計画相談事業所とは、日常的なやり取りを行い、様子の共有や幼少期の姿の確認等をしています。 ・対面で話す機会を持ち、子どもたちの置かれている状況や発達への不安感、保護者の心配ごとをお聞きしています。必要な情報提供を行い、共通理解を持ち支援しています。 ・児童発達支援センターによる事例検討する機会を設け助言を受けながら支援を行っています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	0	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	0	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	0	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	1	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	2	2	
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	3	1	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	3	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0	・日々の活動をドキュメンテーションでまとめ玄関掲示をしています。 ・毎月のお便り、ブログにより子どもたちの様子を発信しています。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	・保護者が様々な話をしやすいように関係を築き、日常のやり取りだけでなく適時面談を実施しています。苦情や要望が挙がった際に事業所の必要な情報や利用児の様子が分かるようHPやSNSの導入を検討します。 ・子ども会議において、様々な子ども達の意向を聞き取ることができるよう挙がってきた意向を実現することを重ねていきます。

保護者への説明等	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4	0	は、即対応することとし、時間がかかる案件に関しては進捗も含め説明しながら対応しています。 ・保護者との交流の場については、イベントを開催し、親子行事という形で保護者と交流する機会を持ちました。	
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0		
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	2		
	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0		
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	0		
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0		
	44 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0		
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	2		
	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0	・災害伝言ダイヤル訓練をしている。毎月防災訓練を実施しています。年1回、伊賀市合同防災訓練にも参加しました。 ・アレルギー、服薬等があれば詳細の説明書などを確認して、共有しています。 ・子どもたちの安全について、計画作成しそれに基づき危険個所を把握した上で取り組んだ内容を家族へ知らせています。 ・虐待防止について、より良い支援をしていくよう取り組みの年間計画を作成し取り組んでいます	
非常時等の対応	47 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	0	・災害の対応や備えなどについて、子どもたちも理解していくような活動実施を行います。 ・てんかん発作、アレルギー対応について、どの職員も初期対応ができるよう研修を徹底します。 ・保護者にも分かりやすい非常時対応の案内に取り組みます。	
	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	0		
	49 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	1		
	50 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0		
	51 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	0		
	52 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0		
	53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0		
	54 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	1		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	名張育成会 ココロノイロ			
○保護者評価実施期間	2025年11月1日 ~			2025年11月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数)	12名
○従業者評価実施期間	2024年11月1日 ~			2024年11月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児ひとりひとりに向き合い個別の支援方法を編み出し、個別支援計画のプロセスに沿って支援内容を作成しています。	・誕生日月の前月に保護者面談を実施し思いを反映 ・本児の思いも会話が出来れば聴き入れ、難しければしぐさや表情、好きな遊びなどのかかわりから支援を検討しています。	さらに支援技術の向上を目指し、関係機関との連携協力のもと専門的職員による助言や事例検討を踏まえ、知識と技術を磨きます。
2	子ども会議の開催	子どもたちがやってみたいこと、どうしたらやれるのかを支援者と一緒に考えます。	子どもたちが考えやすい雰囲気を作り、子どもたちが中心となり協力して物事に取り組む姿勢を応援します。
3	情報共有と支援の統一	日々職員間の話し合いを密にし、支援状況に応じ支援内容をフットワーク軽くタイムリーに変化させています。その後振り返ることで情報を整理し全支援者で共有します。	子どもたちの思いをさらに引き出し、経験を増やせる活動を5領域を意識して行い、そこから子どもたちが考え方行動することを応援します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報開示において、アナログ	必要であると感じながら、SNSへのハードルが高いと感じており、なかなか手が付けられずにいた。	法人に取り組みをサポートしてもらい、取り掛かる。
2	保護者同士の交流	R7に初めて保護者型プログラムを実施した。保護者の方は、保護者アンケート含め保護者間での交流をもっと求めていると実感した。	親子行事 年間1回開催継続 保護者のみ参加のリフレッシュ交流を開催
3	関係機関との情報の共有	学校との時間のずれがあることによる時間調整の難しさがあると考え、日常化したお迎え時以外でのやり取りがしづらかった。	積極的に働きかけ、学校訪問をして情報の共有を行います。